

議 事 録

公開・一部公開・非公開			部 分 非公開 理 由		
健康福祉部長	子ども家庭支援課長	子ども家庭支援係長	係		文書管理責任者
	福祉課長	福祉推進係長	福祉援護係長	保存期間	30（ ）・10・5・3・1・随
	健康推進課長	保健係長			
教育部長	教育課長	学校施設係長			
				作成日	令和6年8月19日
	保育課長	保育係長		記録者所属	子ども家庭支援課子ども政策係
				職・氏名	係長 大塚 しのぶ 印

会議等の名称	令和6年度 第1回子育て支援審議会	開催日時	令和6年7月23日（火） 午後1時30分～午後3時40分
		場 所	本庁舎2階全員協議会室
主催者(事務局)	子ども家庭支援課	司会者	司会進行：小林課長 議事進行：小池会長
出席者	【委員】小林由美委員、土屋千夏委員、五十嵐江利子委員、岡田和子委員、小池道子委員、田丸憂太委員、鈴木沙也可委員、所千恵委員、月岡栄子委員、吉田周平委員、只木とも子委員、五十嵐英美委員、谷貴人委員 【事務局】寺田嘉彦健康福祉部長、小林裕次子ども家庭支援課長、掛川一郎福祉課長、武井淳一健康推進課長、土屋岳史教育課長、春原和美保育課長、土屋佐知子ども家庭支援課主幹、塩入卓也子ども支援係長、大塚 (傍聴者あり)		
欠席者	関旦子委員、森澤隼門委員、尾形裕子委員		

議 題	(議題) (配布資料) 別紙会議資料のとおり ・第2期東御市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について ・東御市こども計画及び第3期東御市子ども・子育て支援事業計画の骨子（案）について ・こども計画及び第3期子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール（案）について	
次回への検討事項	特になし	
次回開催	(日時) 令和6年11月下旬予定	(場所) 未定
討議内容及び経過	(発言者名)	(発言内容)
1 開会	事務局	
2 会長あいさつ	会長	
3 市長あいさつ	市長	
4 自己紹介		委員及び事務局員の自己紹介

討議内容及び経過	（発言者名）	（発言内容）
5 第2期子ども・子育て支援事業計画の概要について	事務局	事務局より説明
6 協議事項 （1）第2期東御市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況及び令和6年度の取組内容について	会長	協議事項に入る。 それでは、協議事項（1）第2期東御市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況及び令和6年度の取組内容について、事務局から説明をお願いしたい。
	事務局	資料1（1～7頁）、資料1-1、資料1-2、資料1-3について説明
	会長	意見、質問等はあるか。
		（意見等なし）
（2）東御市子ども計画及び第3期東御市子ども・子育て支援事業計画の骨子（案）について	会長	協議事項（2）東御市子ども計画及び第3期東御市子ども・子育て支援事業計画の骨子（案）について、説明をお願いしたい。
	事務局	資料2について説明
	会長	会議形式では意見が出にくいいため、計画骨子のうち、基本理念及び基本目標について、4～5人のグループに分かれてワークショップを行いたい。
		（ワークショップ）
	会長	各グループで出された意見を順番に発表いただきたい。
	グループ1	基本理念の中に入れてほしい言葉として「地域」、「支える」、また、「子育て中の親も子どもも生き生きと生活できる」というキーワードがほしい。また、子育ての理念とは合わないかもしれないが、県外に出て行った若者が戻って来たいと思ってもらえるような言葉を入れてほしい。 地域全体で子ども、若者の会話の場所を増やしてほしいという意見が出された。
	グループ2	「地域全体」、「支えあい」という言葉がよい。「子ども達が生きていく力」という言葉も出された。「子どもと親を支えるのが地域」というイメージ。 「共に支えあう」に主語がないので、どのように考えたらよいか。保護者も忙しい中、必死に子育てしていることや異年齢で育つということだろうか。 自分を肯定的にとらえられると良いのではないか、という話題も出された。
	グループ3	1、2グループとは逆で、基本理念に「地域」は必要なのか。「地域」はいい言葉だが、基本理念はオール世代で使えるもので、一番の基礎になるものなので、あえて「地域」と入れなくても、「共に支えあう」など全世代に使える言葉で認識してもらった方がいいのではないか。「地域」は基本目標で掲げていけば良いのではないかという意見が出された。 「地域」は大事なことだが、「地域」に備わっていた機能が薄れてきていることをどのように再構築していくか、地域福祉計画策定の中でも議論しているが、理念に「地域」という言葉は重い。「共に支える」など誰もが認識できる言葉にした方がよい。
	グループ4	「地域で育む」「共に支えあう」という言葉は入れたほしいという意見が出された。「子どもが」と主体を明記しているものもよい。「輝けるまち」というのは曖昧でとらえ方が難しい、言い換えできないか。子どもが主体ではあるが、保護者が出てこない。市外に出た子どもが、自分のまちが自慢できるようなまちになってほしい、そうした理念があるとよい、という意見が出された。
	会長	3つのグループから「地域」という言葉が出て、1つのグループは「地域」はいらないのではないか、という意見が出された。グループ3の方から補足をお願いしたい。
	委員	個人の考えだが、「地域」というと年配の方のイメージがある。東御市全体となった時に、具体的な「地域」という言葉で表すより、「共に支えあい」などで子どもと抽象的な全世代に向かうように、あえて「地域」という言葉は外してもいいと思った。
	会長	他のグループの方からも、意見をいただきたい。

討議内容及び経過	（発言者名）	（発言内容）
	委員	グループ1は、まず「地域」は絶対必要という話をしたが、若い方は「地域」という言葉が重いと感じていることはなるほどと思った。隣近所の歩いて行かれる範囲で相談やお願いができるような「ご近所関係」を「地域」と捉えているが、若い方は車でどこでも移動して行かれて、若い世代の方には「地域」という言葉が重い感じていることを初めて知った。こども達だけでは近所しか行かれない。そのあたりを含めて、東御市全体としてよく考えなければいけないと感じた。
	委員	確かに「地域」とよく使われるが、改めて言われるとどこまでが「地域」なのか思うところはあり、なくても良いかとグループ3の話を聞いて思った。
	委員	「地域」を気軽に使っているが、「地域」の何が支えてくれるのか分りにくい。基本理念ではなく、基本目標に地域がどのように支えるかが入っているので、基本理念には是非入れなくてもいいのではないかと思います。
	会長	基本理念に限らず、他に補足や意見はあるか。
	委員	基本目標になるが、3の「困難を抱えるこどもや子育て家庭の支援」は分りにくい。
	委員	基本理念が長すぎても誰にも届かない。端的でわかりやすい言葉があればいいと思う。「地域」という言葉も、目標で具体的に定めていく方がいろいろな人の届くのではないかな。
	委員	地域のつながりがなくなってきていると感じている。地域の行事に若い方達があまり出てこない。こどもの育ちは、根本的には親と子の育ちがあって、それを周りがサポートするのが「地域」であると思う。あまり「地域」を全面に出すと、若い方は反発を持つのではないかな。
	会長	多くの意見を出していただいた。この後は、事務局にお任せする形でよいか。
	事務局	良いキーワード、ヒントをたくさんいただいた。これからの5年間、東御市の子育て施策として市民の皆さまにわかりやすく伝えていかれるか、言葉だけにとらわれず何が必要か、いただいたご意見を参考に考えていく。次回の審議会の前に事務局案を委員へお送りし、またご意見を頂戴する機会をいただきたい。
	会長	子育て審議会や行政だけでなく、一般市民に裾野を広げていくために、どういう形でアプローチしていけばいいか、市民の方に届くような理念にできるとよい。
(3) こども計画及び第3期子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール（案）について	会長	(3) こども計画及び第3期子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール（案）について、説明をお願いしたい。
	事務局	資料3について説明
	会長	スケジュールについて、意見、質問等はあるか。
		(意見等なし)
	会長	全体を通して意見、質問等はあるか。
	委員	アンケートの内容にあったが、東御市も人口が減り、子どもの人数も減って少子化になっている。結婚しない人、子どもを産まない人も増えている。時代背景をしっかりと踏まえて、子ども・子育ての支援方法を検討しないと、空虚なものになってしまうのではないかと心配している。アンケート結果を読むと心配な内容が多くあるので、それらを踏まえて検討いただきたい。
	会長	どこの地区も少子高齢化の問題を抱える中で、いかに市民と行政が一緒に前に進めるかがキーワードだと思う。市民に届く言葉で、市民もそれを受けて一緒にやっという理念にしてほしい。委員の中でも、さらによい考えがあったら、発信・共有してほしい。本日用意された協議事項は終了となる。
7 その他	事務局	その他で何かあるか。
	事務局	次回会議の開催時期について説明
	事務局	保育園で発生した不適切保育について説明
	事務局	東部地区小学校給食センター建設について説明
8 閉会	事務局	閉会